

出展団体の一部を紹介



『箕面難聴者サークル「木かげ」』

難聴者体験や要約筆記を紹介。要約筆記とは、会話を書き起こして難聴者をサポートすること。「参加者同士で話し合うことで、一人ではないと感じ、問題解決のきっかけになる」と代表の谷口さん(写真左から2番目)



『NPO 花とみどりグループ』

『NPO 花とみどり』ほか、園芸に関する複数の団体による合同出展。活動内容の展示や花苗の配布を行った。「販売や配布だけではなく花に関する知識も一緒に伝えています」と副代表の福田さん(写真前列左)



『NPO 法人 箕面こどもの森学園』

リーフレットや書籍の展示販売と、エコバッグにもなる「あずま袋」を販売。「年30回以上のイベントに参加しますが、このフェスタは学園と普段関わりがない、通りがかりの人にも見てもらえます」と佐野さん(写真左)



『豊能障害者労働センター』

『ボタンがつなぐ人と布プロジェクト』として、東日本大震災で被災した福島県の障がい者作業所のボタンを使ったバッグなどを販売。「糸を傷つけないようボタン穴を磨いて仕上げました」と田中さん(写真中央)



巻頭特集

まちと、人と、つながろう

みのお市民活動センター

さまざまな市民活動団体をサポートする『みのお市民活動センター』。スタッフの思いを聞き、同センターが主催する『みのお NPO フェスタ 2017』を取材するうちに、活動続ける人々の原動力が見えてきた。



男女に人気があります」と話す。ストーリーダンスサークル「Beat&Box」のステージを見に来た小学生の女の子はダンスに興味があるといい、観客の最前列で同世代が踊る姿を熱心に見つめていた。

当日会場を飾ったのはアフリカ布のガーランド(旗飾り)。実はこれも、市民活動から生まれたものだ。『豊能障害者労働センター』を中心に、合計6つのNPOや企業がコラボした「ボタンがつなぐ人と布プロジェクト」。東日本大震災の被災地復興支援を目的に、福島県の障がい者作業所で生まれた木のボタンを使いバッグなどを販売している。「みのお市民活動センター」は生地に使用されたアフリカ布の端切れを引き取り、市民が参加できるガーランド作りのワークショップを開催した。「団体同士のコラボを支援するのも私達の仕事。このプロジェクトからガーランド作りの企画が生まれたことも、コラボの醍醐味だと感じています」と須貝さん。



理事長の須貝昭子さん(写真中央)と、センター長の牧野紀之さん(写真左から2番目)、事務局スタッフやサポーターのみなさん。「開設当時、商業施設に市民活動センターがあるのは珍しかった。長年の活動で、市民活動団体の情報発信力は年々上がっていると感じます」と須貝さん

「豊かに生きていきたい」「思いを応援する施設」

『みのおキッズモール』2階。映画館の向かい側に、『みのお市民活動センター』がある。市民活動団体に向けて、会議室や多目的室など活動場所を提供するほか、情報発信など活動についてのアドバイスや、イベントの主催を行っている。現在、同センターでは200以上の団体を把握しており、20年以上の活動実績を持つ団体もあるという。

市民活動とひとくちに言っても幅広い。ダンスや囲碁、音楽など趣味を深めるものから、障がい者支援や子育て支援などの社会福祉に関わるもの、国際交流や環境保護など、ジャンルも方針もさまざまだ。「市民活動」とはそもそも、何を指すのだろうか。同センターを運営する『特定非営利活動法人 市民活動フォーラムみのお』理事長の須貝昭子さんに疑問をぶつけてみると、「内容は多様ですが、すべての市民活動の目的はひとつ、『豊かな生き方を実現すること』です」と答えてくれた。どのような生き方に豊かさを感じるのかは人によって異なる。だからこそ多彩な市民活動が生まれるのだ。「活動内容は重要。でも、その先に仲間ができて、生きがいができることも大切です」と須貝さん。

同センターでは、新しく団体を立ち上げた人からの相談も受け付けている。相談では、その人の心の奥にどのような思いがあり、どのような生活や社会を求めているか、しっかりと聞き出すことを心がけているという。

取材協力
箕面市立みのお市民活動センター
(指定管理者:特定非営利活動法人 市民活動フォーラムみのお)
【住所】箕面市坊島4-5-20
みのおキッズモールWEST1-2F
【TEL】072-720-3386
【営業時間】9:00~22:00
【休み】12/29~1/3、臨時休館日

- 市民活動を知りたい・始めたい
みのお市民活動センター 公式サイト
<http://www.shimink.jp/>
- ボランティアに参加したい
v-info(ブイインフォ)
<http://v-info.minoh-npo.com/>
- NPOの広報活動がしたい
NPO広報サポーター promo(プロモ)
<http://promo.minoh-npo.com/>

自分の能力が思いがけず社会につながるかも

非営利目的とはいえ、市民活動が続けるNPOには、人材や資金など事業性と計画性が必要。同センターではNPO活動を助成する「夢の実支援金」取得のアドバイスや、パンフレットやプレスリリースの制作講座で、活動継続の後押しをしている。

市民活動に関心のある人に向けた取り組みも始まった。また、『v-info』は箕面近隣でボランティアしたい人と募集する人をつなぐ情報サイトだ。また「NPO広報サポーター promo」では、学生が中心となってボランティア団体を取材・レポート。レポーターになれば広報活動を手助けしつつ、現場の雰囲気もわかる。

人の話を聞くこと、子どもと目一杯遊ぶこと、誰かの髪を結んであげること。「好きなことや得意なことが、実は誰かの役に立つと気が付いていない人も多いはず」と須貝さん。自分だけの豊かさを探しに、市民活動の扉を開いてみよう。



◀『箕面クワガタ探検隊』によるクワガタバトルでは、子どもたちが戦いの行方を見守っていた



▶11月5日からはNPO持ち込み企画、同月12日からはパネル展も実施された

遊び、学び、発見がある年に一度の晴れ舞台

11月26日、同センターと外の『かやのさんべい橋』で「みのおNPOフェスタ2017」が開催された。日々活動に励む箕面市内の30団体が大集合する、年に一度のお祭りだ。14回目となる今回も活動内容の展示、ワークショップ、ぜんざいやわたがしの販売、特設ステージでのパフォーマンスと盛りだくさん。遊びに来た親子連れや通りがかりの人々で賑わう一日となった。

このフェスタは市民活動団体にとつて、日頃の活動内容を楽しく伝える良い機会となっている。例えば、缶バッジやコースターを作成できる『パソコンサークル「だんご組カフェ」』のブースは子どもたちに人気だ。参加者は画面上でオリジナルの絵柄をデザインし、パソコンを使ったモノ作りの面白さを体験した。小誌2016年5月号でも特集した『箕面ホテルを守る会』は展示やホテルクイズを実施。代表の石田さんは「ホテルは老若